

ヒーリング実験速報

測定・分析 小久保秀之

2台の乱数発生器（Orion型 RNG）に対して、ヒーリングの意識集中がどのように作用するか調べました。RNGは電子的なサイコロで、毎秒200個の1、または0をランダムに出力します。念力がRNGに作用すれば、RNGの出力が異常に偏ると予想されます。

測定日：2019年9月14日（土）

場 所：みちあかり（名古屋市名東区高社）

測定開始時刻：11時42分 測定終了時刻：15時58分

近接ヒーリング：参加者5名によるRNGに対するヒーリング。12時00分より10分間。5名は測定装置の周りに車座に座ってRNGに意識を集中させてヒーリング。

遠隔ヒーリング：SNSで参加を呼び掛けた人たちによる遠隔ヒーリング。12時30分より10分間。会場の参加者5名と実験者（小久保）は、測定装置の周りに車座で座って雑談。

一斉ヒーリング：他から呼びかけのあった地球への一斉癒しヒーリングに参加者5名が参加。13時00分から17分間。参加者5名は測定装置の周りに車座に座ってヒーリング。

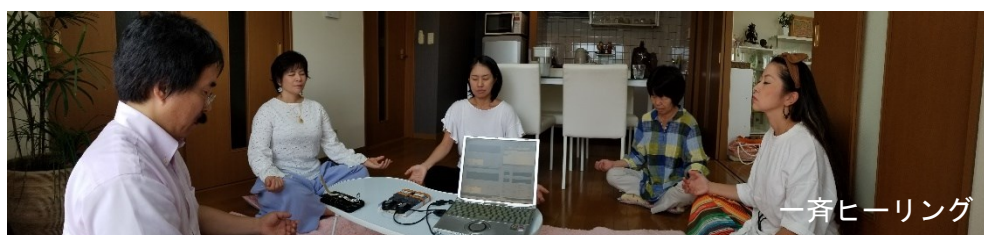
データ分析区間：各ヒーリング開始10分前から連続する30分間を実験区間とし、実験者を含む全員が昼食のため会場を無人にした13時20分から連続150分間を対照区間として分析しました。

分析指標：RNGの出力乱数の偏りからZという指標を算出しました。1が多ければZは正の値に、0が多ければZは負の値になります。

さらに、毎秒の Z^2-1 を累積し、その確率（p値）からZに再変換した換算Z（Converted Z: CZ）を指標として算出しました。

RNG用ソフトウェア：Fred.exe (ver.1.0)

実施状況：



結果：

近接ヒーリングでは、換算 $Z=2.118$ ($p=0.035$ 、両側) となり、統計的に有意な偏りを示しました。遠隔・一斉ヒーリング、および対照区間（無人状態）ではいずれも偶然の範囲内でした。また、 Z はいずれの区間でも偶然の範囲内でした。

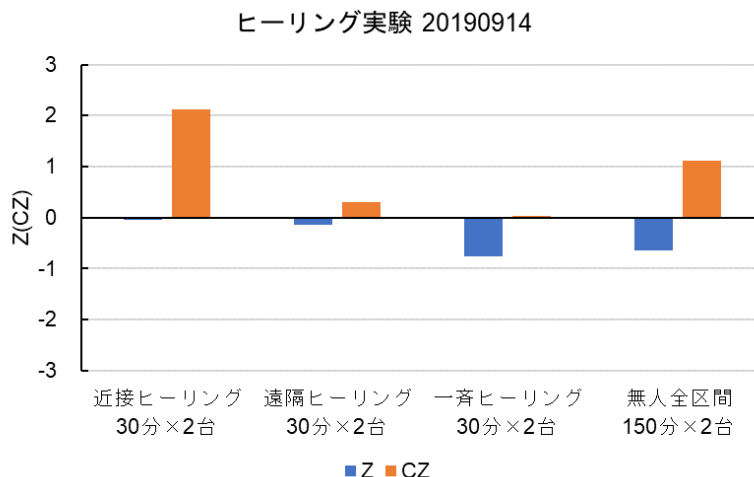


表 2 台の RNG の合成結果

	秒数	累積値	累積偏差の Z	毎秒の Z^2-1 の累積値	Z^2-1 の p 値 (片側)	換算 Z
近接ヒーリング 30分×2台 11:50:00-12:19:59	3600	359983	-0.040	179.74	0.017	2.118
遠隔ヒーリング 30分×2台 12:20:00-12:49:59	3600	359938	-0.146	25.04	0.384	0.295
一斉ヒーリング 30分×2台 12:50:00-13:19:59	3600	359680	-0.754	3.32	0.484	0.039
対照 (無人) 150分×2台 13:20:00-15:49:59	18000	1799385	-0.648	213.30	0.130	1.124

考察：

ヒーリング条件では、参加者は 1,0 の出力を偏らせることは狙わず、いつも行っているヒーリングを RNG に対して実施しました。近接ヒーリングでは、 $Z = -0.040$ で Z はほぼゼロでしたが、換算 Z に異常が見られたことから、参加者の念力場 (PK 場) が混じり合った変動状態が生じたと推定されます。

遠隔・一斉ヒーリングでは異常が見られなかったことから、PK 場の作用の仕方、あるいは作用する「エネルギー」が近接の場合と異なる可能性が考えられます。

留意点：

1 回の測定結果ですので、この結果を直ちに一般化することはできません。確度の高い結論を出すには、多数回の測定が必要です。